

都・建設予定地 生活記 (11)

あまり良く知られていないインドの西・グジャラート州で生活しながら、なんとかこの片田舎を都にしてみようと足掻く僕的生活記。

僕がここ、グジャラート州に来た時は「肉・酒・ネット」が三大欲求だった。約二年前のことだ。今では少しずつ生活が豊かになった。肉はどうにもなっていないけれど、お酒はほかの州から持ち込んだものがある。はじめは不安定だったネット回線も、スマホを買い、テザリングで携帯電波をパソコンだとか iPad で自由に使えるようになってからは生活が変わった。寮住まいなので固定回線でネットを引いていないわけではないけれど、動画くらいなら全く問題なく見られるので不自由もしていない。だいたい「都」に近づいたものだ。

グジャラートはインフラがいいし、治安もいい。よく言われることで、グジャラートの人たちも、それを誇りに思っている。そんな中、少し前に暴動が起きた。Patidar という社会階層グループが自分たちの地位向上を目指して街頭活動をし、夜になるとそれが行き過ぎて暴動に発展したのだ。僕はその夜、アーメダバードの方へ出ていたのだけれど、帰宅時には道のいくつかは封鎖され、警官が何人もまとまって立ち、バスが一台、燃え盛っているのを見た。もともと集会の日、学校はお休みということになっているのだが、この状況を見て、大学も休みを二日間延長した。暴動云々はひとまず置いておいて、翌日には大規模な交通規制が掛かり、アーメダバードに住んでいる学生が大学まで辿りつけなくなってしまったからだ。大学前の路地が封鎖されたことが一番大きかったかも知れない。アーメダバードの学生が大学に辿りつけないということは、逆もまた然り、はじめから大学内に住んでいる僕は軟禁状態になった。

とは言え、翌日は平和そのものであった。学生のいない静かなキャンパスは、もはや落ち着きしか感じない。ちらほらと見える学生もただ、休みになったことを喜んでいるようにしか見えなかった。万が一に備えて、食料は買いだめしてあるので外に出られなくて困ることはない。それでも新聞でもニュースでも大々的に取り上げているし、もちろん身近なことなので、どうなっているのか気になる。情報を得ようと携帯のテザリングでネットにつなげようとした段階で、携帯のネット電波が遮断されていることに気がついた。

暴動の拡散を危惧して、携帯のネット回線が切られた、と後のニュースで読んだ。固定回線の方は生きていたようだが、携帯だけが命綱だった僕はすっかり世間と切り離された。ネットが当たり前にある生活に慣れてしまうと、いざなくなった時どうしていいのかわか

らなくなる。少なくとも、ネットがなければ住んでも都にはならない。手持ち無沙汰な一日を過ごしながら、僕は「誰かネットが遮断されたことに暴動を起こせよ」と心から思ったのだった。

プロフィール：滝口浩平

2010年から約1年間のデリー留学を経て、東京外大ヒンディー語専攻卒業。色々あって塾・予備校の市進に雇われ、また色々あってインド現地法人 Ichishin India Consultant.Pvt.Ltd 社員となる。更に色々あって日本語教師として Pandit Denndayal Petroleum University (PDPU) で教鞭をとる。第29回織田作之助青春賞受賞。